miyagi prefecture forest instructors association

MIFINEWS

宮城県森林インストラクター協会

少年団大会を無事終えて

76

令和2年12月発行

巻頭言

会長　14 期　髙橋　孝紀

新型コロナウイルス禍の本年の活動も、会員の皆様のご協力を得て、ピークを乗り切ることが出来ました。昨年のこの時期は、台風の被害で県民の森を含め、県内各地でも多くの被害がありました。今年は集中豪雨はなかったものの、振り返れば雨天の多い日が続いたようです。昔聞いた話に大雨で避難を余儀なくされた或る町の少女の話がありました。その少女は、ゆるぎない神への信仰を持ち、自分にはどんな災害があっても、いざという時には神が助けに来てくれると信じておりました。ある大雨の日、両親が 2 階にいる少女に早く避難しなさいと言っても、彼女は『自分は大丈夫、神が自分を守ってくれる』と言って聞きませんでした。両親が諦めすぐに追いかけてくるようにと促した後で、近所の人が、川が氾濫しはじめ洪水になるからと声をかけ、その後も、氾濫した川に消防隊員がボートに乗って、そして、最後にはレスキュー隊がヘリから、少女の家の２階にロープを垂らし救助しようとしました。しかし、いずれも彼女は、私には神が守ってくれるからと、どの救いの手も頑なに拒んでしまいました。

・・・天国に召された彼女は目の前に現れた神を問い詰めました。神は悲しい目をして、『お前は何度も私の救いの手を拒んでいたので今ここにいるのだよ。私が姿を変えて手を差しのべた近所の人も、消防隊員も、レスキュー隊員もみんなお前が阻んでしまったのだよ・・・』雨が強くなるたびにこの話を思い出します。人間は自然の中の一員です。だからこそ、自然に対する畏敬の気持ちが求められます。とともに、人は常に周囲の人から支えられて生きており、自分を支えてくれる人々への感謝の気持ちも忘れてはならないと言われます。様々な人々との出会いの中には、神が姿を変えて私たちを諭している場面が、今迄にも、そしてこれからも時折あるのでしょう。神は誰にでも、何にでも姿を変えることが出来るようです。近年の大雨や、今年の新型コロナウイルスも、神が姿を変えて、私たちに何かを伝えたかったのかも知れません。

P.1　巻頭言
P.2　きかくがいろん
P.3　事業部報告
P.4　少年団大会
P.5　活動報告
P.6－7　こもれびの森
P.8　リレー式／安全
P.9　紙上研修
P.10　森林環境税
P.11　インフォメーション／編集後記
P.12　活動写真館

Gekiron! きかくがいろん Bouron!

～　今年のＭＶＰ発表　つぶされたカニとハゼ　？　～

１期　木村　健太郎

突然ですが、企画部の今年のＭＶＰを発表させていただきます。もちろん、活動でもっとも活躍した（というか私が助けられた）方です。ちなみに、人間とは限りません。

栄えある今年のＭＶＰは、クロベンケイガニさんです。昨年あたりから海岸防災林付近をウロウロ歩いているのをやたらと目撃するようになり、今年は、各河川の河口域でしばしば気味悪いくらいの大発生を目撃していました。

仙台市海岸公園センターハウスでは、施設内に次々に侵入してくるので困っているとか。しばしば来館者に踏まれてぺちゃんこになっているそうです。

このカニの良いところは、①大量にいて採取が簡単であること　②陸ガニなので飼育が容易であること　③挟まれてもそれほど痛くないことです。海岸防災林のイベントでは子どもたちのお土産となり、その他のイベントでも毎回のように登場して大活躍しました。

私が出入りしているほとんどの児童館等では既に飼育されていて、夏に数匹持っていったカニがずっと元気に生きています。新型コロナウイルスの影響で何でもオンライン化・バーチャルリアリティ化されていく中で、生き物と直に触れ合える貴重な体験として好評を得ました。

そのカニの侵入に悩んでいる仙台市海岸公園センターハウスですが、周辺や目の前の貞山堀がきれいに整備され、環境が落ち着いてきた結果生き物が増えてきたことが大きな進歩です。

おかげで、海岸防災林植樹（保育）～海岸清掃とビーチコーミング～貞山堀で遊ぶ、という理想的な複合プログラムを実践できるようになりました。このプログラムが他の地域でもできるようになると、今年で植樹が完了し足が遠のきそうになっている海岸防災林での活動プログラムが充実し、海岸防災林の保育管理を良い形で継続できるようになります。クロベンケイガニたちの役割も、さらに重要になってきそうです。

１０月２７日、仙台市荒浜北官林で、ネッツトヨタ仙台さんの海岸防災林植樹活動に協力しました。平日なので子どもたちは全員未就学児でしたが、久しぶりに子どもたちに「自然児パワー」を感じました。

午前は植樹活動、午後から、親子を連れて貞山堀にハゼ釣りに行きました。エサのアオイソメを誰も怖がらない状況にまず感心し、それほど釣れなくても真剣に釣り続ける様子にとても嬉しくなりました。

１時間程度遊んで、さぁ帰ろう、と片付けをしながら、子どもたちに「釣ったハゼさんどうする？」と聞いてみました。「逃がしてあげる」という回答を予想していたのですが、全員が「持って帰って食べる！」とたくましいお返事。２歳くらいの女の子は、自分で釣った小さなハゼを口から内臓が飛び出しそうなくらい右手にギュッと握り締めたまま駐車場まで戻り、そのまま車に乗ろうとして母親に止められていました。少女の狩猟本能恐るべし。「キャッチ＆リリース」など贅沢ボケの戯言です。「捕ったら逃がさん」。このままたくましく成長していって欲しいです。

仙台市海岸公園センターハウス前の貞山堀には、クロベンケイガニとマハゼのほかに、テナガエビ、ヌマチチブ、セッパ、クロダイやボラの幼魚、さらにアメリカザリガニにナマズもいました。冬場は水鳥も多い場所です。素晴らしい遊び場ができて、これからが楽しみです。

しかし、西から流れ込む２本の堀から赤い泥水が流れ込むと、とたんに魚がいなくなってしまうので、何とかならないかなぁと思っています。

さて、今年の活動も一段落してしまいましたが、新型コロナウイルスとの戦いはまだまだ続きそうです。むしろ我々は、何でもオンライン化・バーチャルリアリティ化して良しとしてしまう社会と戦っていかなければならないのかもしれません。この急激な動きは、新型コロナウイルス禍だから仕方なく起きているわけではありません。Ｗｅｂ業界やテレビゲーム業界の利益のために社会全体がまんまと誘導され、大切なものを失い続けている現実に気づかなければなりません。

今年特に感じたことですが、子どもたちに葉っぱ遊びやネイチャークラフトや昔遊び等をやらせても、できる学校とできない学校は極端に差がついてきています。教育方針なのか、はたまた地域性なのか、事あるごとにパソコンばかりいじらせている学校も増えているようです。

来期は、コロナ後も見据えながら、さらに実体験重視型のプログラムを創出していこうと考えています。生き物に触る、木や竹を削る、ロープで縛る、穴を掘るなど、自然の中の一員として人間が本来持つべきパワーを引き出すために、楽しく実のある企画を考えてコロナとオンラインに立ち向かっていきます。

もう　終わりかな？

海岸林再生事業部　14 期　水原　洋一

With コロナで経済活動が徐々に回復を始め、事務局の折衝の成果もあって海岸林の植樹活動が 9 月から動き出しました。植樹の適期は 10 月末までのため 7 件の活動が毎週のように行われ、準備から当日までご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。これらの活動状況をご報告しますが、10 月 4 日みどりの少年団大会、同 18 日荒浜北官林ナイス・ボーイスカウト植樹、11 月 3 日七ヶ浜町代ヶ崎浜植樹は、別のページに掲載されているので併せてご覧ください。

9 月 27 日岩沼市寺島川向「海岸林キッズ最後の植樹」は、県試験植栽地の空きスペースに補植のイメージでクロマツとハンノキ約 180 本を植えました。既存クロマツの間をぬって刈払いや位置出し、固い基盤のバールを使った穴掘りは鈍った体に喝を入れてくれました。参加した親子 67 名は植樹に汗を流した後、貞山堀の生き物観察や避難の丘での減災体験なども行いました。

10月24日岡田砂原ジャパンクリーンさんとの植樹は、約 250m×約 25mの基盤にクロマツ 2,550 本を植える計画で進行しました。当日行われる仙台市の植樹イベントの一画をなす活動で、昨年の台風 19 号の大雨で流された稲わらをすき込み排水の良くない基盤でしたが、大勢で準備を行いました。植樹当日に約 900 本分を仙台市のイベント参加者が植えることが判明し、チョットカが抜けた所も有りましたが、予想時刻より随分早く完了することが出来ました。

同 26 日岩沼市千年希望の丘ニッセイ緑の財団植樹は、同財団が地域の方々と共に千年希望の丘方式で広葉樹約 600 本を植えるもので、当協会（31 名）が作業協力しました。防草シートを多用した方式で通常の植樹方法との違いなど体験したと思います（私は不参加）。　同 27 日荒浜北官林ネッツトヨタ植樹は昨年に引続くもので、今回はネッツトヨタ社員家族約 40 名によるクロマツ約 450 本の植樹でした。植樹の最後にお子さん達により標柱の設置が行われ、その後は海岸でのビーチコーミングなども楽しんだようです。

今年度で植樹は終了しますので、これでもう終わりになるかもしれません。が、今後は植樹木の成長に合せて育樹が行われますので、引続き皆さんのご協力ご支援を宜しくお願いいたします。

1,600 本の植樹完了（岡田砂原ＪＣ植樹）

サポーター養成講座開講

２期　進藤　恵美

今年度の「宮城県森林インストラクター養成講座」はコロナ禍のために中止となりましたが、受講後に多数の方が活動にご参加いただいている「みやぎ自然環境サポーター養成講座」は実施の運びとなりました。8 月から「①海岸防災林の保育作業と海岸清掃」「②刈払い機による除草と厄介な雑草について学ぶ」「③サクラ植樹と森の整備作業」「④間伐作業と間伐材を使った防災・減災プログラム」と 4 回の予定でしたが、受講希望者が多数のために急遽②③④を２回ずつ、全７回の講座が開かれました。

11 月 7 日は植樹の講義。木は植えたら自然に育つと、温暖な日本では多くの人が思っています。しかし植樹には、何のために植えるのか、目的を明確にする必要があります。生業としての収益が目的なのか、環境保全か、防災減災が目的なのかで適地適樹を選択し、育林計画を立て管理していかなければなりません。減災目的であれば大きく育てるばかりが良いことではなく、育った木が倒れて被害を拡大することもあると、不勉強な私には新発見連続の内容でした。

今年で海岸林植樹は終了、実験的な意味合いもあり様々な方法で植樹がなされました。今後それぞれの植樹方式が検証されることになりますが、枯れてしまったことに落胆することなく補植を繰り返すこと、植えたら我が子のように大切に頻繁に手入れすることが大事です。林業業界には「山は足跡が肥料」という言葉があるそうです。人が入らないと森は荒れます。足繁く森に入って手入れする大切さを伝える言葉だそうです。海岸林は育林の段階に入りますが、確かな知識を持つための研修も必要かと思われました。

講座の最終日、受講生の皆さんに事務局から「私たちと一緒に汗を流してみませんか」とボランティア登録を呼びかけたところ、２０名の方が応じてくださいました。

大勢の意欲ある受講生が協会活動の仲間入りをしました。頼もしい限りです。迎える私たちも、より足元を固め、共に頑張っていきましょう。

第45回宮城県みどりの少年団大会

毎年夏休みに開催される少年団大会は、コロナ禍のために延期となり、規模を縮小して１０月４日（日）に東松島市矢本の大曲海岸で開催されました。参加は全５７団体中１１団体の計１２３名、運営側のインストラクターも例年の半分の３０名で対応しました。

【AM　植樹】

植樹は引率担当と植樹指導担当に分かれ対応しました。到着した少年団から順次受付を済ませた後、１０時から行われる記念植樹までの間、少年団のみなさんは、引率スタッフから海岸林についての説明を聞いたのち植樹場所付近を身近な草花を使って簡単な遊びをしながら散策しました。私の班では、ススキを用いた弓矢飛ばし、オナモミの実（種子？）を使ったひっつき虫遊びで、引率の先生方も一緒になってハマっておりました。次いで海岸堤防に上がり、陸側の残存緑地の現状と海側の波うちのダイナミックさを対比、確認しておりました。１０時から、仙台トヨペット（株）様からの記念植樹用苗木贈呈式の後、今度は植樹指導担当による植樹を行いました。参加者１人大方７本の割り当ての植樹でしたが、子どもたちの理解力が良かったのか、スタッフの指導が良かったのか、いずれにしても手際よい対応を行っておりました。（会報委員　１４期　原田　良一）

【PM　交流会；大曲市民センター】

感染防止のため、活動は全て屋外。記念式典では、丸森町立館山小学校と東松島市立宮野森小学校に新たに少年団が設立されたことが紹介されました。休会となる少年団が増える中で嬉しいことです。交流会はネイチャークラフトが８ブース、花苗の植え付けコーナー、丸太切り、こま対決、バスケ対決、カニ釣り、昔遊びコーナーと盛りだくさん。恒例のじゃんけんでスタートし、子どもたちはそれぞれが好きなブースに出向いてインストラクターと共に遊びました。スタッフ３０名ではとても忙しく、クラフトブースでは目配りが大変でした。子どもたちは久しぶりに思う存分動くことができ、会場は歓声にあふれました。また、景品交換コーナー（森林なぞなぞ、こま対決、バスケ対決などでスタッフに勝った子どもたちが好みの景品をゲットするところ）では、交流会の途中からヒートアップした子どもたちが景品集めに躍起となり、また、お母さん方の意向も加わり、争奪戦といった状況でした。無事に終わり安堵感漂う表紙写真をご覧ください。（会報委員　２期　進藤　恵美）

海岸防災林植樹

２期　進藤　恵美

１０月１８日（日）仙台市荒浜北官林でナイス株式会社とボーイスカウト名取第一団と一緒に植樹活動を行いました。「イセちゃん、ミチくんでーす！」と自己紹介ぶりもすっかり板についたナイスの社員さん、会員と共に子どもたちの植樹指導にあたりました。手早くどんどん植えたにもかかわらず残念ながらスッポスッポ抜け、やり直しを命じられたチームも。植えたマツの最大の敵は雑草であること、草に覆われると光合成ができなくなり大きくなれないので、除草が大事なこと、その後も枝打ち・除伐などの手入れが必要なことを学びました。参加の皆さんは植えたらそのまま立派な松林になると思っていたそうです。

海岸に移動し砂浜でレジンペレットを探して海洋汚染問題を考えました。貝殻を拾ったりカニ穴を掘ったり波と戯れたりとコロナ自粛から開放されて遊びました。昼食後は、腕に覚えがある会員が講師となり貞山堀で釣り。釣り餌のアオイソメを手でちぎって針につけるのが第一の関門、釣り上げた魚の針を外すのが第二の難関。「一番楽しかったのは？」の問いの答は「釣り！！」でした･･･。

10/31 ゴルファー桜の森植樹活動

２０期　木村　武

高気圧に覆われ晴天に恵まれた県民の森「ゴルファー桜の森」で第３回サクラ植樹祭が開催されました。もりもり教室の親子さんを中心に午前中はサクラ植樹や森づくり活動を午後からは青少年の森芝生広場でネイチャークラフト活動を行いました。「ゴルファー桜の森」ではオオシマザクラの植樹、遊歩道づくり、肥料入れ、竹切り、枝打ち等盛り沢山のメニューです。

特に今回はノウサギ等による獣害防止の為に植樹した苗木にチキンワイヤー（金網）を取り付けました。今後の効果が期待されます。森づくり活動をよそにブランコやジャンピングが大人気なのはコロナ禍では止むを得ないのでしょう。（おっちゃん、おばちゃんは首を長くしてお手伝いを待っていましたよ）。ネイチャークラフトは、ゴルフ緑化促進会みかねぇさんのピンク色コーディネートに合せてサクラ枝剣、サクラロケット棒、サクラぶんぶんこま等サクラバージョンが沢山出店し子どもたちは目をギラギラさせて楽しんでいました。これからも宮城の「花見山」を目指して沢山の活動が開催できるように祈願しています。

七ヶ浜町代ヶ崎浜区海岸防災林再生植樹祭

１０期　草野　洋一

七ヶ浜町で代ヶ崎浜西地区海岸防災林再生植樹祭が１１月３日に行われ、協会は２３人が植樹指導にあたりました。主催は七ヶ浜町代ヶ崎浜地区会。当日は晴天に恵まれ、県、町緑化推進委員会、県水産林政部、同林業振興部、東北電力仙台火力発電所等の来賓、関係者と家族連れ約１２０人が参加。開会式のあとヤマザクラ、ヤブツバキなど４種の記念樹４本を主催者、来賓者により記念植樹。１６本が地区民によって植樹、八つがけで補強し、続いて植樹地を囲むようにしてハマナス、サツキ、トベラなど低木花木６種１１５本を0.15ｈａに植樹。総数は前日分と併せて３１７本。支柱には樹名板、植樹者が自分の名を書いた木札を括り付けました。植樹場所は防波堤に沿った防災緑地で、海側には７月にクロマツが植樹されています。今回、地元からサクラや花木も植えてほしいとの要望があり、前日に協会と地区長以下有志でオオシマザクラ、カシワなどの広葉樹５種９２本とネムノキ、ヤマハンノキの肥料木９０本の計１８２本をクロマツと住宅地の間に植樹。花木は式典当日に。１０月２１日から３回にわたり除草、植樹位置出し、穴掘りとバーク堆肥混ぜ込み等の準備をしました。植樹と並行してネイチャークラフトの体験ブースを設けて、ぶんぶんこまや枝えんぴつなどを家族、子どもたちに協会で用意した花苗（１００鉢）とともにお土産としてプレゼントしました。

ｍｉｆｉｎｅｗｓ76号

さようなら　こもれびの森森林科学館

１３年間に感謝を込めて

宮城県森林インストラクター協会は 2008 年より 13 年間、栗原市花山地区にあるこもれびの森森林科学館の指定管理者として管理・運営を行ってきましたが、来年度より指定管理契約を継続しないこととなりました。

こもれびの森の選択　　施設管理部長　及川信彦

宮城県による「こもれびの森」の指定管理は、今年度一杯で終了になります。年明けから協会として指定管理を継続するかどうか、大きな課題でした。理事会に答申するため小委員会を作り、話し合いを始めたのは４月下旬。

話し合いでは１３年間の流れ、今後の展望も含め検討を重ねました。その中で人材確保の問題と財政面の問題の２点が課題となりました。７月の最終答申まで４回の会合を持ち、その２点を重点的に討議しました。

１）人材確保の問題。現在の職員は高年齢化してきていて今回の指定管理終了と共に数人の退職希望者がいる。継続を希望している職員も５年間（指定管理期間５年）の契約期間内に高年齢化は避けられなく、新たな職員確保が必要であるが県北からの確保は困難である。人材を広く募集する方法もあるが、現状の予算の中では人件費や交通費の大幅な増加ができない。

２）財政面の問題。現在職員の給料は、宮城県の最低賃金を上回っているが、最低賃金の引き上げにより次期契約期間中には給与の昇給が見込まれ、人件費が増加する。又、職員を仙台圏から確保する条件で試算すると、交通費増が見込まれ現在に対して２割増しぐらいの予算が必要である。

今回、以上二つの課題の解決が明確にならない限り、協会として名乗りを上げない事で最終答申を行い、理事会に報告了承されました。

こもれびの森　ウッドランドクラブ

感謝。花山だからこそ

初代所長　８期 髙田 豊

2008 年 4 月、準備万端、スタッフ一同張り切って開館にこぎつけました。

【地震】順調なスタートを切ったものの開館から 2 ヶ月後に岩手・宮城内陸地震が起こり閉館しました。1 ケ月後に再開できましたが、状況は一変しました。まず、施設から先の道路は閉鎖、「こもれびの森」も使えなくなりました。そこで、「こもれびの森」に代え施設前の草木川を活用することにしました。更に、地元花山の状況は深刻な状況が続いていました。観光施設が壊滅、多くの住民が長期の避難生活を余儀なくされ、行方不明者の捜索も続いている状況でした。観光客が立ち寄るような場所ではなくなった為、「森林科学館」を目的に来ていただけるような施設運営を目指しました。

【ボランティアさん支援のイベント】幸いポツンと一軒家のような大自然の中にある森林科学館が持つ魔力でしょうか？H さん S さん他ボランティアさんが徐々に集まってくれました。「花山だからこそ」を目指し、ボランティア・スタッフ総力をあげたイベント「こもれびウッドランドクラブ」は人気となり、常設のネーチャークラフトコーナーを目的に来館される方も出てきました。

【振り返ってみて】スタッフや多くのボランティアさんとの交流で、楽しく、多くのことを学ぶことができました。森林科学館、そして皆さんありがとうございました。

こもれびの森　ウッドランドクラブ

こもれびの森森林科学館の思い出

第３代所長　８期 山本 和雄

こもれびの森には準職員として平成 11 年４月から令和２年７月まで約 10 年間お世話になりました。森林科学館は池月駅（あ・ら・伊達な道の駅）から国道４５７号線に入り、25 分程山道に入ったところにあります。涼やかな川音、木々を通り抜ける風の音、そして小鳥のさえずりだけが聞こえる静かな心安らかな所で、勤務日の朝は駐車場の開錠のたびにしばらくたたずみ癒される思いでした。職員の仕事は来館者の対応から管理・運営まで様々ですが、当初平日は一人勤務でしたので一日の段取りを管理面、運営面から組み立て充実した時間が過ごせました。

平成 26 年度から 2 年間は所長として責任の重さを感じながらも森林科学館としての方向性などを示せる立場にもなり、来館者がより気持ち良く過ごせる場所づくり、来館者増の方策などにも心をくだいたことを思い出します。

令和元年９月千葉所長（4 代目）の突然の体調不良により、１０月から代行として急遽所長を務めることになりましたが、令和２年に入りコロナ禍が起き、4 月の開館に向けての消毒液等の入手や県の方針に従った対応に奔走しました。そして４月１日開館を迎えましたが、10 日からは閉館（園は開園）の指示があり、再度５月 16 日から全面オープンになるなど、コロナ禍に振り回された年度始めでした。イベントも出来ない中、コロナ対策と園内整備を重点に活動しましたが、「コロナ対策ができていて安心して過ごせました。」との来館者アンケートの記述を見て、とても嬉しく思ったことが心に残ります。千葉所長との思い出や足跡などあらためて振り返ると思い起こすことは多々ありますが、それは自分の中に記述しようと思います。私の至らなさや身勝手を心広く受け止めて頂いた協会に、深く感謝いたします。

こもれびの森　ウッドランドクラブ

こもれびの森　ウッドランドクラブ

13 年間

副所長　９期 小林　妙子

山が、自然が好きというだけで受講した森林インストラクター講習。周りの方々はみんな専門分野を持っていましたが、私は落ちこぼれでした。しかし、研修で自分の知らなかった事を学ぶことは楽しいものでした。研修修了後、こもれびの森森林科学館で働くことになりました。

自然の中で働くことは気分爽快で、自然の動植物の変化にワクワクする日々となりました。以前の職場も楽しかったですが、第二の職場である「こもれびの森」も楽しい職場でした。そして、イベントとなるといつでも快く駆け付け手伝ってくださるサポーターの皆さんあってのイベント開催でした。夏のイワナつかみ、秋のお茶会、キノコ鍋等々全部楽しかったです。科学館のサポーターの皆さんありがとうございました。

もう一つ科学館を語る上で忘れられないのは、クサギカメムシの思い出です。最高はペットボトル 17 本分ものカメムシ捕獲です。ある日ガラス越しの陽だまりでひっくり返って綿埃と格闘するカメムシを目にしてからは可愛いものに変わりました。

これからは、バケツ一杯のオタマジャクシとは帰宅するくせに、蜘蛛、蚊、蠅に怯えて大騒ぎする孫と栗原の自然を楽しみたいと思います。協会の皆さん、サポーターの皆さん、イベントに参加してくださった皆さんに支えられた 13 年間とても楽しかったです。ありがとうございました。

こもれびの森　ウッドランドクラブ

去る１１月２２日に森林科学館にて職員、ボランティアの皆さんを中心にお別れ会が開催されました。皆さんの声を取材しました。

■毎年７月と８月の２回だけの参加でしたがとても楽しく参加させていただきました。ありがとうございました。（８期　岡本栄治）■１３年間思えばいろいろなことがありました。年間５，０００人の目標を達成できたことが一番の思い出です。（９期　及川正彦）■1 歳を含む３人の子どもを連れて「一桧山を歩こう」のイベントに参加したお母さん。見事に 3km を踏破！その翌年もです！自然を愛する育て方は素晴らしいと思いました。（10 期　伊藤春光）■ピザ作りが大変楽しかったです。これからピザを焼けなくなるのが寂しいです。（１６期　浅野幸徳）■短い勤務でしたがイベントで多くの方々と自然を通してふれあい、自然の楽しさを再認識することができました。チャンスがあればまたこのような場所で働きたいと思いました。（１８期　二瓶芳徳）■期待していたイベントも無く寂しかったです。でも、ステキな先輩方達と一緒に仕事ができ、有意義な４ヶ月でした。感謝・・・感謝（２０期　鈴木茂）■今年は私の生きがいのイベントが全部中止になって残念でした。みんなに逢えなくてとても寂しいです。長い間有難うございました。（こもれびの森サポーター　伊藤ひろ子）

安全のページ

登山から学んだ熱中症対策

20 期　寺澤　良則

五龍岳登頂！

皆さんの中にも「山登りが好きだ!」と言う方も沢山おられるでしょう。山登りと言っても、ピークハンター・クライミング・山菜採り・渓流釣り等様々な楽しみ方があります。私はどちらかと言えばピークハンター（頂上に立てば満足）です。それゆえ、樹木や鳥の名前も分からず山の楽しさをもっと知ろうと思い森林インストラクターを目指し現在に至ります。

夏の登山では、大量の汗をかくため熱中症にかかりやすく、実際私も登山中に吐き気や筋肉痛に見舞われ、頂上で風に当たりながら一時間くらい寝ていた事がありました。幸いにも、風に当たったことで体温が低下し、大事には至らず無事下山できましたが、熱中症対策の大切さを身に染みて感じました。

熱中症予防のためには、涼しい場所での休憩や水分ミネラル分の補給等体温調節機能（熱を体外に放出する機能）のバランスを保つことが重要で、スポーツドリンクの活用が有効です。

スポーツドリンクには、ナトリウムなどのミネラルや糖分が含まれており、アイソトニック飲料とハイポトニック飲料に分かれます。アイソトニック飲料は、体液に近い浸透圧(0.1～ 0.2%の塩分と4～ 6%の糖分が含まれる)に設定された飲料水です。ハイポトニック飲料は、低浸透圧に設定され水分が多くミネラル分が少ない飲料水です。私は熱中症を体験してから、登山前と下山後には糖分が多く含まれ、エネルギー補給に優れているアイソトニック飲料を、登山中は水とミネラルの吸収が速いハイポトニック飲料を飲むように心掛けています。

熱中症は夏場だけでなく、体調不良により汗が出にくい時にも発症することがあります。協会の活動中は、スポーツドリンクを活用した水分補給と休憩を積極的に取り、熱中症対策をしましょう。

☘リレー式　会員の広場

19 期の駆け出しインストラクターです！

１９期　田沢　由香里

『百聞は一見に如かず』還暦を迎えて自分の人生を振り返るとそんな事が沢山ある。人伝えに聞いて想像を膨らませているより、実際にえいっ！とやってみた方が楽しくて、はまっちゃったりするのだ。パソコンしかり、ヨサコイしかり、森林インストラクターしかりである。

『森林インストラクター』の名前は知っていたものの、突然受講を決めたのは、退職後の楽しみをまたひとつ持ちたかったからでもある。受講してみて、その活動の幅の広さ、パワフルさ、知識の深さに思わずメマイ（笑）。講義はさまざまなプロフェッショナルのスゴ技に感動の連続だったが、中でも一番の驚きは伊豆沼での鳥の観察の時、講師の方が飛んでいる猛禽類をじっと見ておっしゃったひと言。「餌を食べたばかりですね、素嚢（そのう）が膨らんでいる」・・・わかるのか！？

活動のお手伝いでは、やはり、植樹活動や刈払いは足手まといになりそうで腰が引ける。実際に活動している女子に聞けば相応の仕事を振ってくれるから大丈夫というものの・・・これも『百聞は一見に如かず』かな？一度、行ってみなくては！そんな中でとても大好きになったのが『流しそうめん』（爆笑！）。私はひょっとしたら、流しそうめんのために森林インストラクターになったのかもしれない！と思うほど、そうめんを流すのは快感である。子どもたちの阿鼻叫喚が好き💜。そして、コロナ禍で何が残念と言ったら筆頭は『流しそうめん』のイベントがすべてなくなった事に尽きる！

こんな能天気な私だがご縁をいただいて、５月から県民の森の中央記念館に勤務している。出勤すると春はウグイスの声、夏は蝉の声に迎えられ、十三夜には、かくやと思う名月を鑑賞！クロアゲハのお世話をして羽化を迎え、待望のアカハライモリの飼育を始め、倉庫近くでヤマカガシの脱皮を見た。ごみ置場を片付けすぎて青大将に会えなくなったのは無念。始めて悲鳴をあげた『イオウイロハシリグモ』に、次回はシャッターチャンスを逃すまいと決意！すっかり、染まりつつある駆け出しのインストラクターのつもり・・・です。

羽化したクロアゲハ

中央記念館にお立ち寄りの際は、ぜひお声がけ下さい。

❀ 次回は 19 期の大槻美和子さんにリレーします。

紙上講座　野鳥を撮る

１６期　髙橋　政彦

写真は撮影時に気が付かなかった羽の形、表情やしぐさなど、野鳥の魅力をいろいろと教えてくれます。野鳥をより深く知る一助となります。県民の森にもたくさんの野鳥がいますので、楽しみながら撮影しましょう。

＜１＞先ず、心掛けたいこと

野鳥は人を警戒しています。①無理に近づかない、②ゆっくり動く、③木などを利用して体を隠す、などに心掛けて野鳥の生活を邪魔しないように撮影しましょう。

＜２＞いよいよ撮影

①観察が大切

野鳥に近づくと逃げてしまうことが多々あります。自然な姿を少し近くで撮るには観察が大切です。よく止まる枝、実がなっている木、水場などを見つけて「待って撮る」のが良いでしょう。掲載の写真はエゴノキの実をくわえてうれしそうな表情のヤマガラと水浴びをするツグミ。どちらも観察後に、その場で待っていた成果です。

ヤマガラとエゴノキの実

ツグミの水浴び

②風景を写し込む

季節感のある写真や野鳥の群れを撮るときは、風景もいっしょに写しましょう。５月、中央記念館奥の広場にマヒワの群れが来ていました。新緑の風景を背景にして採餌中のところを撮ってみました。

渡り途中のマヒワ

③ピントの位置

野鳥の目（顔）に合わせるのが基本です。

④シャッタースピード

飛んでいる鳥は１／５００秒以上で撮りましょう。

＜３＞野鳥が多くなる時期、場所など

５月の連休前後に夏鳥、１１月からは冬鳥が渡って来て森は賑やかになります。青少年の森の樹木園や藤棚の周辺、林間広場や高森山が比較的野鳥の多い場所です。

次は野鳥が好む木の実の一例です。

- ミズキ：ヒタキ類、ツグミ類
- ナナカマド：ヒヨドリ、アトリ類
- ヌルデ、ハゼ：ジョウビタキ、カラ類

＜４＞おわりに

撮影に夢中になり、野鳥の警戒範囲に入ってしまうことがあります。野鳥がキョロキョロしたり、かがむような動作をすると警戒や飛び立つ合図です。それ以上近づかないでその場から撮影しましょう。先ず観察して、野鳥の生活を邪魔しないようにしながら、自然な姿を撮ったものが良い写真だと思います。

縄張り宣言中のオオルリ

シリーズ第３弾：森林環境税を探る　森林整備　木材利用・啓発のために

前回の取材では、森林環境譲与税について、市町村がどう活用すべきか悩んでいる様子がわかりました。そこで、勾当台公園が紅葉に染まった 11 月９日、県の林業振興課地域林業振興班の佐藤裕也班長のところにうかがい、県の立場と考えを聞いてきました。

Q　佐藤班長は、宮城県森林インストラクター協会設立時の養成講座を担当されたとのこと。

A　当時、入庁４年目で、自然保護課にいました。山の知識が少なかったので、講座の中で楽しく勉強させてもらいました。思い出深いことです。

Q　森林環境譲与税が配分され、森林整備が始まりました。主体は市町村ですが、県の役割は。

A　譲与税は、森林経営管理制度とセットとなっており、森林所有者が管理できなくなった森林を市町村が管理するための税です。そして、市町村の取り組みをサポートするのが、県の役割になります。サポートセンターを設置してアドバイザーを置き、どんな作業をするか講習会をしたり、市町村に赴いて個別的に相談にのったりします。また、森林管理のノウハウを持っている人を「林政アドバイザー」に認定し、市町村に紹介しています。市町村は人材の部分が弱いので、そこを重点的に支援しています。

Q　みやぎ環境税と国の譲与税との違いは。

A　みやぎ環境税は、温暖化や生物多様性等も含めた全体的な環境が対象。クリーンエネルギーや鳥獣保護、工場の排出を減らす等いろいろな部署で活用し環境を整備します。それに対して、国の譲与税は、森林のための税金です。荒廃した森林を整備し適切な森林にすることが目的で、手入れの行き届かない個人の森林を整備するのにあてます。みやぎ環境税は森林所有者が実際に自分で整備する時の補助金を補助する、つまり、やりたい人に補助するお金です。それに対して、譲与税は所有者が放棄した森林を市町村が肩代わりして整備する、いわば、お手上げした人に市町村がなりかわって整備するためのお金なのです。

Q　市町村は不安を持っていると思いますが。

A　県が全面的にサポートします。新しい制度で市町村もどうしてよいかわからないので、研修等で一緒に勉強しながら使い方を探っています。譲与税は市町村ごとに計画を定めて、どう整備すればいいか方針を立てながら長期的な視野で進めていきます。野生動物の被害が多いところ、山崩れが多いところ、里山の整備が必要なところ等市町村によって状況が異なるので、どういった整備をしたらよいかの意向調査などを行い、市町村ごとに取りまとめて、市町村ごとの適正な森林づくりを行っていきます。

Q　私有林は個人の資産です。個人の資産に税金をつぎ込むことに理解を得られますか。

A　所有者と地元とのかかわりがなく、森林が放置されているのが問題です。整備する意欲のあるところは整備するが、整備をしないところはしないのが林業の課題。そこを市町村が預かってなんとかするのが今回の譲与税の目的です。

Q　あまり身近に感じられる税金ではありませんが。

A　森林の整備自体が公共の効果を持ちます。森林は温暖化を抑えたり、環境を保全したりといった多様な機能を持っていることをわかってもらいたい。実際山に住んでいる人より、都市部の方が恩恵が大きいのです。また、市町村が木材を使うということは、譲与税の使途の対象になります。木材利用は、整備とセットです。譲与税は、森林整備、木材利用・啓発という目的で、市町村が独自の使用をしてよいものです。放置している森林を整備しましょうというしくみ自体がなかったので新しい制度で新しい枠組みが作られました。

Q　基金としての「積み立て」を、どうお考えですか。

A　「積み立て」をされると、国は制度を作った意味がありません。事業をするように、県もお願いしています。具体的に被害が多いので整備は緊急。実際に整備は市町村が行いますが、森林情報の整備は県が実施しています。とにかく健全な山に戻すことが肝要です。

Q　環境教育にも譲与税が使えるのですか。

A　環境教育はクリーンエネルギーや生物観察等幅広く、これはすでにみやぎ環境税で補助しています。また、木材利用についての広域的な事業は既存の事業で補助しているので、譲与税を使うのであれば、市町村独自の木材利用など違いをみせることが必要。木育ということで子どもたちに森林の大切さを教えるということをするなら、譲与税を自由に活用して欲しい。譲与税は始まったばかりでイメージがつきにくいですが、使い方は市町村の裁量にまかされています。市町村独自の木育をやりたい、学校の木育に使いたいということは、可能ではないかと思います。

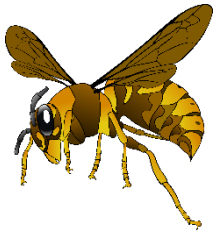
Q　協会に期待することは。

A　森林整備や木育に実績もあるし、頼れる団体と認識しています。市町村に積極的にかかわり、学校教育や木育の場面で実績を作っていただければ、譲与税の使い方を広げられると思います。

森林環境譲与税は、放置された山を健全な山に戻す森林の整備が大きな仕事ですが、木を使う・木育ということも視野に入れて活用できそうです。あくまでも市町村の裁量で使途が決まるということなので、整備と木育の橋渡しを協会で考えられたらと思います。　（聞き手：会報委員会）

ひよこインストラクターのよもやま話⑩

10 月下旬のある日、***割り箸１本でスズメバチを捕まえました。***



というと達人技でもしたようですが、何の事はなく、弱っていたスズメバチにハチミツを塗った割り箸を差し出して箸の上に乗せ、保護したのです。夜の冷え込みが強くなりそろそろ働きバチは力尽きてくるころかなぁと思っていた矢先、庭先でハチがじっとして動けなくなっていました。なかなかスズメバチを近くで見るチャンスはないので、昆虫ケースに入れて回復していく様子も含めて観察することにしました。

まずは腹部(おしりに見えるのが腹部)が透けて見えるほど空腹なハチの口元にハチミツを置きエネルギーを与えました。匂いですぐにわかったようで口を動かして飲んでいます。そして冷え切っているのでケースごとコタツで暖めます。３時間もすると体温を回復したハチはケースの中を歩けるようになっています。そこでハチミツを補充してあげるとまた飲みましたが、しばらく飲むと再び動けなくなり前足が痙攣してきました。水分不足のようです。水を口元に差し出すと勢いよく飲み、痙攣が落ち着きました。翌日は日光と外気に当てながら小さな芋虫を与えるとなくなっていたので食べたのでしょう。ずいぶん回復したようで暖かな陽に向かって外に出たい様子です。しかし、もう少し観察させてもらいましょう。スズメバチとはいっても種類は何でしょうか。身近に見られるスズメバチの種類は 7～8 種です。このハチの色は黒黄系、腹部端・前足の色は黄色、大きさは 27 ㎜位と、少しずつ見分けポイントを見つけて絞ります。顔を正面から見て鼻のように見える部分の頭楯(とうじゅん)の形からコガタスズメバチのようです。私はハチを観察できて嬉しい一方、ハチからはだんだんと狭いケースに閉じ込められている悲壮感が感じられるように。３日目には翅を羽ばたかせてホバリングし、外に出る準備万端なので「好きな空を飛んで命を全うしてね」と放してやりました。

観察でわかった事は種類、成虫が幼虫からもらう栄養液には及ばずともハチミツで回復できること、ハチミツだけでは水分不足で体液バランスが崩れること、水平面を歩くのはなかなか下手なこと(笑)、そして助けてくれる人をたぶん認識しているようだということです。『鶴の恩返し』ならぬ『蜂の恩返し』はスズメバチを知る機会ができたことでした。

（18 期　阿部　映美）

公式ツイッターやってます！！

イベント情報だけではなく、四季折々の施設周辺の様子もつぶやいています。
皆さんもぜひご覧の上、フォローをお願い致します♪
入口→協会ＨＰ、または@mifi_koushiki

編集後記▶落ち葉の上を歩くことが好きです。遊歩道や登山道の足首まで埋まるようなふかふかの落ち葉の中に入ると、五感が開放され叫びたくなります。足下の葉の形や彩りに、葉の主や樹林の姿を改めて見つめ直してみると、すっかり装いを落としたすっぴんの樹皮や樹形がそれは美しい！毎年、この感動と共に木々の名前を知りたいと思うのですが・・・。雪が降りる前にもう少し楽しみます。（９期小島恵子）▶新型コロナウィルスの感染者数が、また増加してきました。影響は人間だけにとどまらないようで、引きこもり生活で人の姿が見えなくなった町にクマが出てきたり養殖のミンクが感染したりというニュースも聞きました。目に見えないウイルスが自然界のみならず、社会や活動に大きな影響を及ぼすのを眼前にして、子どもの受験の時も受けなかったインフルエンザの予防注射に行っていきました。（９ 期篠澤知子）▶４年前に妻の知人から皇帝ダリア（メキシコ・中米・コロンビア原産）をもらい庭に植えました。一年目はすくすく伸びて４・５メートルになり１１月につぼみが出たら霜にあたって枯れてしまいました。一昨年と去年は一重で直径１０センチほどのピンクの花が房状に咲き見事でした。今年は春には４株芽を出し５メートルほどに育ち１１月９日に一輪咲きました。今まで寒い朝があったのですが幸い霜に会わずに花数を増やしています。満開になるまで霜が心配で翌朝の最低気温をチェックするのが日課になっています。しかしこのままの天候だと花が散るまで見られるかも。（11 期鈴木武）

活動写真館

クラフトで使える植物を植えました

10/18　緑の募金事業
ファミリーマート夢の掛け橋基金

10/18　ナイス（株）さんと
ボーイスカウト名取第一団との植樹

植樹の後はビーチコーミングに出発

貞山堀で釣り、ハゼが釣れたよ

最後となる海岸林植樹

10/24　岡田海岸防災林の植樹活動（上）
植樹の説明を受ける郡仙台市長（下）

10/26　千年希望の丘
ほとんど会員のみ！　頑張りました

11/3　七ヶ浜で地元の方々と

ゴルファー桜の森でたくさんの子どもたちが植樹活動をしました。

10/31　もりもり教室

11/15　仙台市立南材木町小学校４年生

11/18　利府町立青山小学校４年生

発行　特定非営利活動法人　宮城県森林インストラクター協会
〒981-0121　宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢４１　青少年の森
TEL&FAX：022-255-8223
メール：mifi@bz04.plala.or.jp　HP：http://mifi.main.jp